

市民版



修理場の船
水彩協会展 猪飼 淳
(16日まで市博物館)

ニュースは社会部へ
(231)7333
紙面などへのご意見は
読者応答室へ
(221)0800

木と語りあう、本格木造住宅
住友林業の家
住友林業株式会社住宅本部
お客様相談室
☎972-0350

名古屋支店 名古屋北支店 愛知東支店 浜松支店 三郷営業所
岡崎営業所 豊橋営業所 岐阜営業所

緑区の職人2人 イタリアの美術館で共同展

名古屋の伝統産業「有松絞」を海外で紹介しようと、緑区内の二人の絞り職人が二月四日から七日間、イタリア・コモ市の現代美術館で共同展「From Japan - 芸術的な布・絞り」を開く。約三百年の歴史を持つ有松絞を世界的視野から改めて見詰め直し、その新たな可能性を模索するのが目的で、ファッションの本場の目に伝統の技がどう映るか注目される。

共同展を開催するのは、同区桶狭間巻山一、絞り図案・型紙制作職人村瀬裕さん(40)と同区有松町往還北、絞り染色家久野剛資さん(30)。
村瀬さんは東海市の高校を卒業後、親戚の絞り業者の下で修業し、二十四歳で独立。県絞工業組合開発委員も務めている。また、久野さんは大学を卒業後、家業の絞り染色工場を継ぎ、さまざまな染色技法を開発。同組合主催の競技会で知事賞などに輝いている。
共同展開催は、イタリア在住の工業デザイナー阿部

来月4日からコモ市で7日間

15技法を使った50点

雅代さんの働き掛けがきっかけ。平成四年夏に、阿部さんから「ヨーロッパに日本を紹介したい」と千種区のデザイナー事務所を通じて打診があり、それを受けて、二人が手元にあった絞りののれんやタペストリーを送った。
その後、二人の作品はヨーロッパ各地で開かれた巡回展で紹介され、多くの反響があった。このため、阿部さんが再度、五年二月に共同展開催を提案した。その結果、二人は「着物など製品ではなく、素材としての絞りをアピールしよう」

ファッションの本場 反響に注目

と共同展の開催を決定。作品の制作を進める一方で、現地の服飾や工業デザイナーなど約二千八百人に案内書を送った。
共同展に出品されるのは約五十点。二人が協議の上、村瀬さんが図案を制作し、久野さんが染め上げたもので、素材には、絹、綿、ポリエステルを使用。絞りの技法としては鹿の子や縫い絞りなど約十五技法が駆使されている。
作品制作にあたっては、やや伝統的な立場を重視する村瀬さんと新しい創作的な姿勢を打ち出す久野さんの間で、しばしば激論。そのため、二人は「伝統と新しい流れが融合した作品ができた」と口をそろえる。
開催の前に、村瀬さんは「伝統の技を見てもらい、まずは、こんな物が有松で作られていることを世界の人に知ってもらいたい」と話し、久野さんは「絞りのしわの良さをわかってもらい、これが、今後の有松絞の活性化につながれば」と期待している。

世界にはばたけ 有松絞



作品を前に打ち合わせる村瀬さんと久野さん。緑区有松町の久野さん宅で

する「第一動物園」を設置は隠すの裏面を明かした。